



美しの国の

木

美しの国の特長として、「明るさ」を挙げる人は多いと思います。明るさの理由の一つは、広葉樹が多いことではないでしょうか。特に白樺の幹の色は、林全体を明るくします。

でも近年、木の伸び過ぎによる様々な弊害が目立ってきました。電波障害や眺望の悪化、倒木の危険、などです。このままではどんどん困った方向に行きそうな気がして、木について調べてみました。

小山林産の小山さん・管理事務所の山岸所長と佐藤さんにご協力いただきました。

標高や環境などによっても違いますが、美しの国に多い木は、シラカバ・ダケカンバ・ミズナラ・モミ・ミヤマザクラなどで、何といてもシラカバが最多だと思えます。

小山さんによれば、この辺りに元々あったのがシラカバ・ダケカンバ・ミズナラ・ナナカマドだそうです。



シラカバ

樹皮

ダケカンバ



ダケカンバは概ね標高1500m以上、シラカバはそれより低い所に生育しますので、美しの国では混在しています。シラカバとダケカンバ、見分けられますか？

一応下記のような違いはあるものの、紛らわしい個体も結構存在します。

共通点：明るい場所を好む。成長が早い。崩壊地にいち早く入り込んで育つ。

違い：シラカバの方が早く芽吹く。ここは5月末頃、ダケカンバが芽吹いて新緑が完成。

シラカバの幹は白く、ダケカンバは赤っぽい灰白色。

シラカバの枝は黒く（幼木と老木は当てはまらない）、ダケカンバは幹と同じ。

シラカバの樹皮は薄く小さく剥けている。ダケカンバの樹皮は大きく剥がれる。

幹に、黒いへこの字模様のあるのがシラカバ。（枝の落ちた跡）

葉については、多くは左図のようだが変異も多く、区別が難しい。

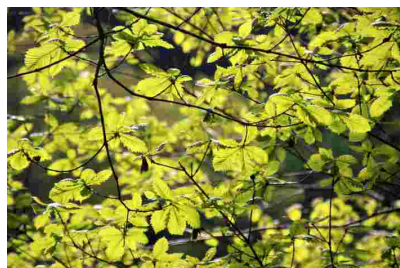


葉



シラカバの寿命は80年ほどしかありませんが、ダケカンバは250年以上生きるものもあるそうです。

山に行くと、いかにも風雪に耐えているといった太く曲がりくねって荒々しいダケカンバを見ることが多いのですが、美しの国のダケカンバはずっと美しく伸びていて、同じ木とは思えないほどです。



新緑の美しいミズナラはコナラやクヌギより冷涼な気候を好み、山地から亜高山帯まで自生します。

寿命は500年を超えるそうですが、高さは30m程度と寿命の割に高くないのは、幹だけでなく根にも栄養を回しているからです。その結果株立ちして横に広がり、更に多くの光を獲得できます。



林の中でもひととき大きく、目立っているのがモミの木です。雪が積もると独特の形になり味わいがあります。また霧氷がつきにくいのか、他の木との対比も面白いです。美しの国のモミは、寒冷な気候を好む、ウラジロモミという種類です。日本の特産種で、諏訪大社の御柱はウラジロモミです。

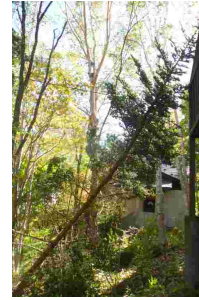


ミヤマザクラは山地の上部から亜高山帯に自生します。ここでの花期はだいたい5月下旬、葉が出揃ってから花が咲きます。他の桜と違い総状になるので、このようにたっぷり花の付いた木は華やかです。ただ上向きに花を付けるので、見下ろせる木を探さなくてはなりません。

このように魅力ある木々は、どなたにとっても一本一本がいとおいしい存在だと思います。ただ、昨年10月の台風やそれ以前の強風や雨氷により、枝が折れたり倒れたりした木があったという現実についても考える必要があります。現状と対策について小山さんに伺いました。



台風と一緒に倒れた、モミとシラカバ



台風で倒れベランダにかかったモミ。他に、更地のカラマツが倒れて隣家のベランダを壊した所もありました。

美しい国の木の特徴として、放置状態の所が多く木が過密に生えているということが言えます。これにより陽の光が根元にたどり着かないので周囲に草が生えず、木にとっては根から栄養を取り込めません。その結果根がしっかり張ることもできなくなるのです。

また開発から40年以上経過し、木が成長して風の影響を受けやすくなったことも、倒木が増えた原因です。

会社ではリフォームも承っているのですが、畳や断熱材の入れ替え、塗装のご注文が増えています。

木が大きくなり家が日陰になって、湿気が様々なトラブルを引き起こしているのです。

屋根にかかっていたり日陰を作っていたりする木は家の寿命を縮める元ですから、伐採をお勧めします。

また、隣家・電線・道路などに倒れる危険があるとか、法面にあって高木になる木も伐った方が良いです。

特にモミは、大きくなると風の影響を受けやすいので危険です。

大きな木を伐って小さな木を育て、木洩れ日が入るようにすることが必要です。遮光率は60~70%が適当で、陽が当たりすぎるとタラの芽などが出て、別荘地としては景観が悪くなります。

伐り過ぎによる急な変化は、生態系も崩れるので良くありません。

高木になる木を道路近くに植えるのは、除雪の邪魔にもなりモラルに反します。少なくとも1~2mは離すか、ツツジなど低木を植えて下さい。

ただ今の美しい国の、木のバランスは悪くないと思います。

周囲のカラマツが入り込んできてしまっていますがそれほど多くはなく、明るくすっきりしています。

他の別荘地よりずっと環境が良いです。ここで仕事をするのを誇りに思っています。

今後の課題として、特に更地の木を伐ることが必要です。適度に間伐することで、別荘地全体のイメージがもっと良くなります。

同時に、周囲に影響がなければ、樹齢何百年のダケカンバといったものも残していきたいと思っています。

管理事務所では、数年前から積極的に管理会社所有の土地や法面の大きくなる木を伐っているようです。山岸所長と佐藤さんにも伐採について伺いました。

- ①20m以上の高木になったモミ・カラマツは風の影響を受けやすく、倒木の危険があるので伐採している。特にカラマツは根が浅く倒木しやすい。
- ②眺望の悪化や電波障害を解決するために多くの区画で伐採整備が必要。
- ③長年間伐しない区画が多く、木が密集して縦にひよろひよろ伸びてしまっている。間伐で横に伸びることでできる環境を作ることが必要。
- ④まったく伐採しない事が自然保護とは考えていない。大きくなりすぎた木(20m以上)を伐採・剪定して小さな木を育てる時期になっていると考えている。場合によっては植樹。

またどちらからも聞かれたのは、死亡事故もあるので伐採は専門家に任せて、ということでした。小山さんは、根元から伐るだけでなく頭だけ落とすとか剪定するといった方法もあるので相談してほしいとおっしゃっていました。費用がかかることなので躊躇してしましますが、管理事務所では伐採件数や時期を集中する事で1軒あたりの費用を抑えるキャンペーンを、業者さんと計画しているそうです。

参考：美しい国で見られる木と、最大高さの目安

(環境などで変化します)

ホオノキ
ヒノキ・ミズナラ
シラカバ・アカマツ
シナノキ・カラマツ
モミノキ トチノキ

25~30m

ダケカンバ
サウグルミ
イタヤカエデ
ウワミズザクラ
ミズキ キハダ

20m

クリ
クマシデ
イロハモミジ
ミヤマザクラ

15m

ナナカマド
リョウブ・ズミ
ハウチワカエデ
オオヤマザクラ
ウリハダカエデ

10m

マユミ
カンボク
ノリウツギ
ヤマツツジ
オオカメノキ
ドウダンツツジ

5m